

第3回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 ワークショップ 概要書

ワーク ショップ名	よい研究論文の書き方
--------------	------------

開催の 目的	良質なプライマリ・ケアを提供するためには、診療ならびにケアの質の評価や教育の改善・開発が欠かせない。ある施設、あるいはある地域での検討や試みが妥当なのか、他施設や他地域でも適用可能なのか、などを検証するためには、学術論文を通じたピアレビューが必須である。 本ワークショップでは、査読者の視点で学術論文の書き方を捉え直すことにより、参加者の論文執筆技能が向上し、プライマリ・ケア研究や論文投稿への障壁を下げ、学会の学術活動が活性化することを旨とする。
対象	■診療所医師 ■病院勤務医 ■後期研修医 ■歯科医師 ■薬剤師 ■看護師 ■プライマリ・ケアに関する研究者
定員	定員：24 名 ※机の配置は全て島組（6 人/1 島）
講師名	講師 山本 和利 （札幌医科大学地域医療総合医学講座） 森本 剛 （近畿大学医学部附属病院救急総合診療センター） チューター 徳田 安春 （筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター水戸協同病院） 松島 雅人 （東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター 臨床疫学研究室） 佐藤 寿一 （名古屋大学） 牛久保 美津子 （群馬大学保健学科）
概要	・ワークショップの趣旨説明：山本和利 ・講師紹介・参加者自己紹介 ・学会誌・英文誌の紹介：山本和利 学会誌の目指すところ編集体制、編集方針、投稿論文の紹介 ・講演「よい研究論文の書き方」森本剛 論文の構成や書き方、図表の使い方、論旨の進め方、初心者になりがちなエラー等 ・ワークショップ 過去のプライマリ・ケア誌や家庭医療学会誌に投稿された初回論文と最終掲載論文をもとに作業 ・グループ発表：森本剛司会 各グループで、論文の改善ポイントを口頭で発表 ・まとめ：山本和利